



関西学院大学大学院
社会学研究科

2020 年度
大学院履修心得
(博士課程前期課程・後期課程用)

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
Graduate School of Sociology

社会学部事務室 開室時間

1. 月曜日～金曜日

8：50～11：30 12：30～16：50

2. 土曜日

8：50～12：20

3. 変則開室期間

■8月1日～9月10日

月曜日～金曜日

9：00～11：30 12：30～16：00

土曜日（9月3日～9月10日までの期間）

9：00～12：00

■12月24日

8：50～12：00

4. 社会学部事務室閉室日

■日曜、祝日（授業実施日は開室）

■5月、6月、9月、10月の第2土曜日および5月の第4土曜日

■7月31日～9月2日までの土曜日

■夏季休業期間

8月13日～8月21日

■冬季休業期間

12月25日～1月5日

■入試関係期間

1月30日～2月7日

注意事項

■社会学部事務室にて手続きを行う場合は、必ず上記開室時間中に行ってください。

■上記開室時間外での受付は、いかなる理由があっても一切行いません。

目 次

スケジュール（2020年度）（P1～P5）

授業スケジュール・行事予定カレンダー（2020年度）	2
授業日程	3
授業時間帯	4
オフィス・アワー	5

全研究科共通（P7～P21）

関西学院大学の理念・目的	8
単位について	9
GPA 制度	9
科目ナンバリング	10
大学院の授業・試験実施に関する警報発令及び 交通機関の運行停止等の場合の取扱要領（抜粋）	11
【大学院】履修・学習要覧 Web サイトの紹介	13
一般注意事項	18
1. 学生証	
2. 掲示・教学 Web サービス	
3. 研究科事務室開室時間	
4. 各種変更手続き	
5. パソコンの利用	
6. 証明書等	
7. 授業の欠席	
8. 授業の長期欠席	
9. 学費	
10. 各種相談	
「剽窃」について	21

社会学研究科（P23～P56）

社会学研究科の理念・目的・教育研究目標	24
I. 社会学研究科の教育	25
1. めざす学生像	
2. ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）	
3. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）	
4. キリスト教主義にもとづく教育	

II. カリキュラム	28
1. 修了要件	
2. 修了に必要な修得単位数	
3. 授業科目	
4. 社会学研究科 科目ナンバリング	
5. 授業・成績	
6. オプションプログラム（先端社会講義／研究）	
7. 2009年度からのカリキュラムの改編内容について	
III. 指導教員	36
1. 指導教員	
2. 副指導教員	
3. 大学院指導教員一覧	
IV. 授業の履修	37
1. 履修登録	
2. 履修指導期間	
3. 履修上の注意事項	
4. 履修モデル	
V. 成績発表・修了延期制度	44
1. 成績発表	
2. 修了延期制度	
VI. 学位論文提出要領	45
1. 修士論文提出要領	
2. 博士学位（甲号）申請論文提出要領	
3. 学位論文審査基準	
VII. 学位取得プロセス	48
1. 修士学位取得プロセス	
2. 博士学位取得プロセス	
VIII. 社会調査士資格	50
1. 制度概要	
2. 標準カリキュラム	
IX. 学 籍	52
1. 特別学生の身分変更	
X. 研究支援制度	53
1. 日本学術振興会 特別研究員	
2. 教学補佐（Teaching Assistant, T. A.）	
3. 大学院奨励研究員	
4. 大学院博士課程後期課程研究奨励金	
5. 大学院海外研究助成金	
6. 社会学研究科学生への研究活動支援	
社会学研究科内規	55

スケジュール (2020年度)

授業スケジュール・行事予定カレンダー（2020年度）

年・月	日・曜日	行 事
2020年 4月	1日(水)	春学期入学式、新入生オリエンテーション、新入生履修ガイダンス 春学期履修登録期間（4月3日16:50迄 ※教学 Web 上での申請） 大学院履修届（聴講・他研究科履修・四大学交流等）提出 （4月3日16:50迄）
	2日(木)・3日(金)	定期健康診断（聖和） ※詳細は、保健館 HP および研究科掲示のポスターを確認すること。
	7日(火)	春学期授業開始
	8日(水)～13日(月)	定期健康診断（神戸三田） 【対象者】 8・9日：女性、10・13日：男性
	8日(水)～21日(火)	定期健康診断（上ヶ原） 【対象者】 8～14日：女性、15～21日：男性 ※土日除く
	17日(金)	後期課程全員：「年次研究計画書」 提出期限（16:50） 前期課程2年生：「修士論文計画書」 提出期限（16:50）
	29日(水・祝)	授業実施日
5月	6日(水・休)	振替授業実施日（月曜日分）
	19日(火)・20日(水)	春季・大学合同チャペル【授業短縮】 第1時限終了 午前10時15分 第2時限開始 午前11時25分
6月	中旬	2020年度春学期 特別学生身分変更申請締切
7月	15日(水)	春学期授業終了 修士論文提出期限
	16日(木)～8月6日(木)	春学期補講または試験期間
	23日(木・祝)	春学期補講・試験実施日
	24日(金・祝)	春学期補講・試験実施日
	下旬	修士論文口頭試問（公開制） 2020年度春学期 特別学生身分変更面接
8月	7日(金)～9月19日(土)	夏季休業
	12日(水)	春学期成績発表
9月	4日(金)	春学期修了者発表
	7日(月)	秋学期履修登録期間（9月9日16:00迄 ※教学 Web 上での申請）
	上旬	大学院入学試験
	中旬	2020年度春学期 特別学生身分変更者発表
	16日(水)	春学期大学院学位記授与式
	17日(木)	秋学期入学式
	23日(水)	秋学期授業開始
	28日(月・創立記念日)	授業実施日
10月	15日(木)・16日(金)	秋季・大学合同チャペル【授業短縮】 第1時限終了 午前10時15分 第2時限開始 午前11時25分
11月	3日(火・祝)	授業実施日
	23日(月・祝)	授業実施日
12月	7日(月)	大学合同アドベントチャペル【授業短縮】 第1時限終了 午前10時15分 第2時限開始 午前11時25分
	中旬	2020年度秋学期 特別学生身分変更申請締切
	23日(水)	冬季休業前授業終了
	24日(木)～1月5日(火)	冬季休業

年・月	日・曜日	行 事
2021年 1月	6日(水)	冬季休業明け授業開始 振替授業実施日(月曜日分)
	12日(火)	秋学期授業終了
	13日(水)～28日(木)	秋学期補講または試験期間
	16日(土)	修士論文提出期限
	下旬	修士論文口頭試問(公開制)(～2月中旬) 2020年度秋学期 特別学生身分変更面接 2021年度 大学院研究員・研究科研究員出願締切
2月	中旬	社会学研究科 研究成果発表会
	16日(火)～3月31日(水)	春季休業
	18日(木)	秋学期成績発表
	下旬	「2021年度 授業時間割(暫定版)」掲示 大学院入学試験、外国語学力認定試験 2021年度 大学院研究員・研究科研究員採用者発表(郵送)
3月	4日(木)	秋学期修了者発表 2020年度秋学期 特別学生身分変更者発表 外国語学力認定試験合格発表
	上旬	教学補佐(授業補佐)募集科目説明会(マッチング会) 教学補佐応募締切
	中旬	教学補佐採用者発表
	16日(火)	秋学期大学院学位記授与式
	下旬	教学補佐採用者説明会

※日程は、2月29日段階の予定です。未定のもの決定次第、掲示します。

また、既に決定している場合でも変更となる可能性があります。その場合も掲示でお知らせします。

※大学院 国連・外交コースのスケジュールは、大学院国連・外交コース履修要項を確認すること。

2020年度 授業日程 (経営戦略研究科および司法研究科は除く)

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
春 学 期	2020年 4月	13, 20, 27	7, 14, 21, 28	8, 15, 22, 29(昭和の日)	9, 16, 23, 30	10, 17, 24
	5月	6(水:振替授業 実施), 11, 18, 25	12, 19, 26	13, 20, 27	7, 14, 21, 28	1, 8, 15, 22, 29
	6月	1, 8, 15, 22, 29	2, 9, 16, 23, 30	3, 10, 17, 24	4, 11, 18, 25	5, 12, 19, 26
	7月	6, 13	7, 14	1, 8, 15	2, 9	3, 10

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
秋 学 期	9月	28(創立記念日)	29	23, 30	24	25
	10月	5, 12, 19, 26	6, 13, 20, 27	7, 14, 21, 28	1, 8, 15, 22, 29	2, 9, 16, 23, 30
	11月	2, 9, 16, 23(勤労感謝の 日), 30	3(文化の日), 10, 17, 24	4, 11, 18, 25	5, 12, 19, 26	6, 13, 20, 27
	12月	7, 14, 21	1, 8, 15, 22	2, 9, 16, 23	3, 10, 17	4, 11, 18
	2021年 1月	6(水:振替授業 実施)	12		7	8

授 業 時 間 帯

(1) 本大学大学院における通常の授業時間帯は次のとおりである。

	平 日			
	西宮上ヶ原・神戸三田・ 西宮聖和・西宮北口	大阪梅田 【経営戦略研究科を除く研究科】	大阪梅田 【経営戦略研究科】	西宮市大学交流 センター
第1時限	9:00～10:30	—	9:00～10:30	—
チャペルアワー	10:35～11:05	《備考参照》	《備考参照》	—
第2時限	11:10～12:40	—	11:10～12:40	—
第3時限	13:30～15:00	—	13:30～15:00	—
第4時限	15:10～16:40	—	15:10～16:40	—
第5時限	16:50～18:20	—	16:50～18:20	—
第6時限	18:30～20:00	18:00～19:30	18:30～20:00	18:00～19:30
第7時限	20:00～21:30	19:30～21:00	20:00～21:30	19:30～21:00

	土曜日			
	西宮上ヶ原・神戸三田・ 西宮聖和・西宮北口 【経営戦略研究科を除く研究科】	西宮上ヶ原 【経営戦略研究科】	大阪梅田 【経営戦略研究科を除く研究科】	大阪梅田 【経営戦略研究科】
第1時限	9:00～10:30	9:10～10:40	9:00～10:30	9:00～10:30
チャペルアワー	—	—	—	—
第2時限	11:10～12:40	10:50～12:20	10:30～12:00	10:30～12:00
第3時限	13:30～15:00	13:10～14:40	13:00～14:30	13:00～14:30
第4時限	15:10～16:40	14:50～16:20	14:30～16:00	14:30～16:00
第5時限	16:50～18:20	16:30～18:00	16:00～17:30	16:00～17:30
第6時限	18:30～20:00	18:00～19:30		17:30～19:00
第7時限	20:00～21:30	19:30～21:00		19:00～20:30

《備考》 ・ 合併科目は責任開講研究科の時間帯を適用する。
 ・ 大阪梅田キャンパスの大学院チャペルは、毎週木曜日17:50～18:20に実施する。

(2) キャンパス間の移動を伴う履修

キャンパス	取り扱い
西宮上ヶ原・西宮聖和 ⇔ 神戸三田	連続した授業の履修は不可
西宮上ヶ原・西宮聖和・神戸三田 ⇔ 大阪梅田	連続した授業の履修は不可
西宮上ヶ原 ⇔ 西宮聖和	連続した授業の履修は不可 ただし、チャペルアワーを挟んだ1時限目と2時 限目および昼休みを挟んだ2時限目と3時限目の 連続履修については可能とする。
西宮上ヶ原・西宮聖和 ⇔ 西宮北口	連続した授業の履修は不可 ただし、昼休みを挟んだ2時限目と3時限目の連 続履修については可能とする。
神戸三田・大阪梅田 ⇔ 西宮北口	連続した授業の履修は不可

オフィス・アワー

- (1) 時限は授業時間帯と同じ。
- (2) 一は留学または特別研究期間等のため、オフィス・アワーを持たないことを表す。
- (3) (春のみ)(秋のみ)は、留学、特別研究期間または自由研究期間のため、春学期か秋学期のいずれかにオフィス・アワーを持つことを表す。
- (4) ※は役職についている専任教員を表す。オフィス・アワーは予約制となるため、面会を希望する場合は、社会学部事務室に前もって問い合わせること。
- (5) 面談場所は原則として個人研究室。

2020.4 現在

氏名(職名省略)	曜日・時限	個人研究室	氏名(職名省略)	曜日・時限	個人研究室
赤江 達也	木 4	102	関 嘉寛	※	222
阿部 潔	火 1	第2 116	高原 基彰	水 3	416
石田 淳	金 1	103	立石 裕二	月 4	320
稲増 一憲	月 4	226	田中 耕一	金 5	N356
今井 信雄	水 3	308	陳 立行	火 5	413
岩淵 功一	水 3	N358	中野 康人	※	101
大岡 栄美	—	317	長松 奈美江	火 2	429
大谷 信介	金 5	N351	難波 功士	—	N451
荻野 昌弘	水 1	417	野瀬 正治	月 3	第2 115
奥村 隆	火 5	N453	野波 寛	月 3	305
金菱 清	火 3	N456	ハード ガブリエレ	—	225
貴戸 理恵	金 3	211	松村 淳	木 3	N152
金 明秀	—	306	三浦 耕吉郎	—	N258
金 太宇	火 3	N255	宮原 浩二郎	水 3	N154
倉島 哲	水 3	224	村田 泰子	—	216
桑山 敬己	金 5	109	森 久美子	—	425
佐藤 哲彦	火 5	307	森 康俊	※	318
島村 恭則	金 5	304	横田 伸子	水 3	415
清水 裕士	木 2	319	吉田 寿夫	月 4	302
鈴木 謙介	木 3	303	渡邊 勉	火 5	212
鈴木 慎一郎	火 4	427			

〈個人研究室の記載について〉

記号なし…第1教授研究館(本館)

N…第1教授研究館(新館)

第2…第2教授研究館(池内記念会館)

MR…メディア・研究棟

〈MEMO〉

A large, empty rectangular box with a double-line border, occupying most of the page below the header. It is intended for writing a memo.

全研究科共通

関西学院大学の理念・目的

関西学院大学はその理念とするキリスト教主義に基づき、教育基本法および学校教育法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、人格を陶冶することを目的とする。

本学初代学長（第4代院長）C. J. L. ベーツが提唱したスクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”は、関西学院の建学の精神を簡潔に表現するものであり、「社会貢献のためにこそ実力を身につけよ」と解されている。本学は、知性を、そして自らが持つすべての豊かさを、隣人のために用いることを強調するとともに、創立当初から培われてきた国際性と社会貢献への使命感を身につけた世界市民の育成を重視する。

本学は、教育においては、全人的教養および専門的知識・技能を修得させるとともに、広く創造力、課題発見能力、課題解決能力そして実行力を培うことをめざす。また、研究においては、本学として特色ある基礎研究を強化しつつ、応用研究および先端的研究を発展充実させるとともに、研究成果を社会に還元して、社会貢献することをめざす。

単位について

本学大学院では単位制がとられている。各授業科目は学則で単位数が定められており、一つの授業科目を所定の期間履修し、最終評価において合格することにより単位が与えられる。

文部科学省令である「大学設置基準」の第21条では「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」とすることが定められており、大学院の授業科目の単位についてもこれを準用することが「大学院設置基準」の第15条に定められている。

本学の大学学則第18条では、大学設置基準と同様に「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準」と定め、講義科目及び演習科目については15時間の授業をもって1単位、言語教育科目、実験科目、実習科目及び実技科目については30時間の授業をもって1単位とすると定めており、大学院の授業科目の単位の基準は、大学院学則第12条および専門職大学院学則第13条に「学部の授業の単位の基準に準ずる」と定めている。

つまり、講義科目及び演習科目については30時間、言語教育科目、実験科目、実習科目及び実技科目については15時間の授業外学習が必要である。

なお、修了に必要な単位数は研究科により異なるので本冊子を参照すること。

G P A 制 度

本学大学院博士課程前期課程では、2015年度入学生より Grade Point Average（以下、GPA という）制度を実施している。本制度は、各自が履修した科目の成績評価に対して、一定の Grade Point（以下、GP という）を与え、その合計の加重平均を GPA として提示する成績評価方法である。この制度を通じて、自己の履修を管理し、学習および研究の成果を把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要である。GPA は、各自の成績表・成績証明書に掲載する。なお、2014年度以前入学生で、GPA の表示された証明書を希望する場合は、所属研究科事務室へ申し出ること。

本学大学院博士課程前期課程での GP の設定基準と、GPA 算出式は以下のとおりである。

【GP の設定基準】

100～90点又は S	評価の場合の GP は 4.0
89～85点又は A +	評価の場合の GP は 3.5
84～80点又は A	評価の場合の GP は 3.0
79～75点又は B +	評価の場合の GP は 2.5
74～70点又は B	評価の場合の GP は 2.0
69～65点又は C +	評価の場合の GP は 1.5
64～60点又は C	評価の場合の GP は 1.0
59～ 0点又は F	評価の場合の GP は 0

【GPA 算出式】

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目の評価の GP})] \text{の総和}}{(\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}}$$

なお、GPA の算定対象には、合格・不合格にかかわらず、研究科が定める科目を除いた本学で開設している全ての科目が含まれる。ただし、認定する科目については、GP を与えず、GPA の算定対象科目としない場合もある。

科目ナンバリング

科目ナンバリングとは授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みである。対象とするレベルが示されているので、適切な授業科目を選択する助けとなる。また、国内外の他大学で行われているナンバリングとの照合によって、単位互換の促進、提携校とのカリキュラムの対照作業にも役立てることができる。

本学のナンバリング体系は以下のとおり。詳細については研究科のカリキュラム説明を参照のこと。

ナンバー	位置づけ	位置づけ詳細
500	博士課程前期課程の科目	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程前期課程の基本的な内容を扱う授業科目 ・全研究科の大学院生を対象に開講する大学院共通科目
600		<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程前期課程で学修する最終段階の水準科目 ・博士課程前期課程で学修する実践的・専門的に極めて高度な内容を扱う授業科目
700	博士課程後期課程の科目	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程後期課程において専門性が高い内容を扱う授業科目
800		<ul style="list-style-type: none"> ・博士学位論文作成に関する研究指導科目および学術論文作成等の研究指導科目

ナンバー	位置づけ	位置づけ詳細
500	専門職学位課程の科目	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職学位課程の基本的または必須の内容を扱う授業科目
550		<ul style="list-style-type: none"> ・専門職学位課程の基本的または必須の内容を発展させた、より専門性が高い授業科目
600		<ul style="list-style-type: none"> ・専門職学位課程で学修する最終段階の水準科目 ・専門職課程で学修する実践的・専門的に極めて高度な内容を扱う授業科目

大学院の授業・試験実施に関する警報発令及び交通機関の運行停止等の場合の取扱要領（抜粋）

この取扱要領は、警報発令及び交通機関の運行停止等の場合の、大学院における授業・試験実施について定めるものである。

- 1 別表のいずれかの地域・市町村に暴風警報、特別警報（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪）が発令されている間は授業・試験を行わない。なお、取り扱いの詳細は第2項以下に定める。また、中止となった試験については別途実施する。
- 2 暴風警報、特別警報が発令された場合の授業・試験実施については次のとおりとする。

授業・試験実施キャンパス〈西宮上ヶ原・西宮聖和・大阪梅田〉

6：00までに別表の地域全ての暴風警報、特別警報が解除されたとき	平常通り授業・試験を行う。
8：00までに解除されたとき	第2時限から授業・試験を行う。
10：30までに解除されたとき	第3時限から授業・試験を行う。
12：00までに解除されたとき	第4時限から授業・試験を行う。
12：00を過ぎても解除されないとき	第4時限・第5時限を休講・試験中止とする。
15：00までに解除されたとき (昼夜開講制)	第6時限から授業・試験を行う。
15：00を過ぎても解除されないとき (昼夜開講制)	第6時限・第7時限を休講・試験中止とする。

授業・試験実施キャンパス〈神戸三田〉

6：00の時点で解除されないとき	全日休講・全日試験中止とする。
------------------	-----------------

- 3 暴風警報、特別警報が発令された場合の、経営戦略研究科の日曜日の授業・試験実施については次のとおりとする。

10：30までに解除されたとき	第3時限から授業・試験を行う。
12：00までに解除されたとき	第4時限から授業・試験を行う。
13：00までに解除されたとき	第5時限から授業・試験を行う。
13：00を過ぎても解除されないとき	第5時限・第6時限を休講・試験中止とする。

- 4 翌日の6：00以降の暴風警報、特別警報の発令が見込まれる場合は、学長の判断により、第2項および第3項に準じて休講・試験中止とする時限を決定することがある。
- 5 特別警報に位置付ける警報（津波、火山、地震（地震動））が発令された場合は学長の判断による。
- 6 交通機関の運行遅延・停止が発生した場合あるいは運行停止が予告された場合は、対象路線・運行開始予定時刻等を考慮のうえ、措置するキャンパスを含めた対応を学長の判断により決定する。
- 7 本取扱要領に定めのない事態については、学長の判断による。

（略）

別 表

	地 域	市町村
兵 庫 県	阪 神	神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
	北播丹波	西脇市、篠山市、丹波市、多可町
	播磨南東部	明石市、加古川市、三木市、高砂市、小野市、加西市、加東市、稲美町、播磨町
大 阪 府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
	泉 州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町

【大学院】履修・学習要覧 Web サイトの紹介

本学では、大学院での学びについて基本的な事項をまとめた大学院生用履修・学習要覧 Web サイト (https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_002499.html) を作成している。このサイトには次の内容が掲載されている。授業を履修するにあたって最低限の情報が掲載されているので、必ず目を通しておくこと。

■大学、研究科の理念・目的・教育目標

■大学院学則、専門職大学院学則

大学院の構成、カリキュラム、課程の修了、休学、編入学、学生心得など関西学院大学大学院での生活の大もととなる規則である。本学の学生は必ず目を通しておくこと。

■授業スケジュール・行事予定カレンダー

■授業時間帯

■大学院の授業・試験実施に関する警報発令及び交通機関運行停止等の場合の取扱要領

■各研究科内規、成績評価・試験内規(司法研究科・経営戦略研究科)

関西学院システム利用 ID とパスワードが必要

■シラバス (授業実施要綱)

今年度開講されている科目の授業の目的、授業内容などを見ることができる。

■教員等紹介

教員等の教育研究内容等を閲覧することができる。なお、教員の顔写真を閲覧するには、教学 Web サービスから「教員等紹介」にアクセスすること。

■学費について

■諸規程

学位規程、奨学金、研究員・研修員、留学、諸施設利用などに関する規程が掲載されている。各研究科等事務室のカウンターにも閲覧用資料を設置しているので参照すること。

■諸制度・諸施設案内

下記について掲載されている。

1. 大学院共通科目
2. 他大学院との交流
3. インテンシブ・プログラムへの参加
4. 学生による授業評価の実施
5. オフィスアワー
6. 各種研究員・研究支援制度
7. 大学院学生共同研究室の利用概要
8. 修了延期制度
9. 博士論文の公表(※)

(※) 博士論文の公表について……文部科学省令「学位規則」の一部改正 (2013年4月1日付) により、博士の学位を授与された者は、学位を授与した研究機関の協力を得て、インターネット公表することを義務付けられました。これに伴い、本学で授与された博士学位に関する論文は、関西学院大学リポジトリにてその全文を公表することとなっています。

ただし、別途定めるやむを得ない事由に該当すると大学が認めた場合に限り、全文公表ではなく、内容の要約公表に代えることが可能です。

リポジトリ登録データの作成・提出、やむを得ず要約公表とする場合の手続き等の詳細については、研究科事務室に問い合わせてください。



■主な機能

- メール利用
(@kwansei.ac.jpのアドレス)
- パスワード変更
- 印刷・ポイント確認
- パブリックフォルダ閲覧
- ファイルサーバへのアクセス
など

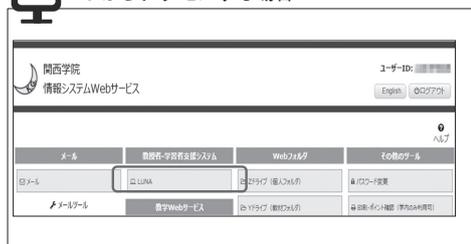
<メールアプリからのメール利用について>
 ・各自のパソコンまたはモバイル端末から、メールアプリにより関学メールを利用することができます。
 利用にあたっては、情報環境機構 Web サイトの「ユーザーズガイド」を参照してください。
<https://ict.kwansei.ac.jp/guide/> (→メールアプリの設定)

LUNA では、科目やコミュニティを利用する学習支援システム、全学共通コンテンツ、ポートフォリオシステムを利用することができます。インターネットにつながった環境があれば、いつでもどこでも利用できます。

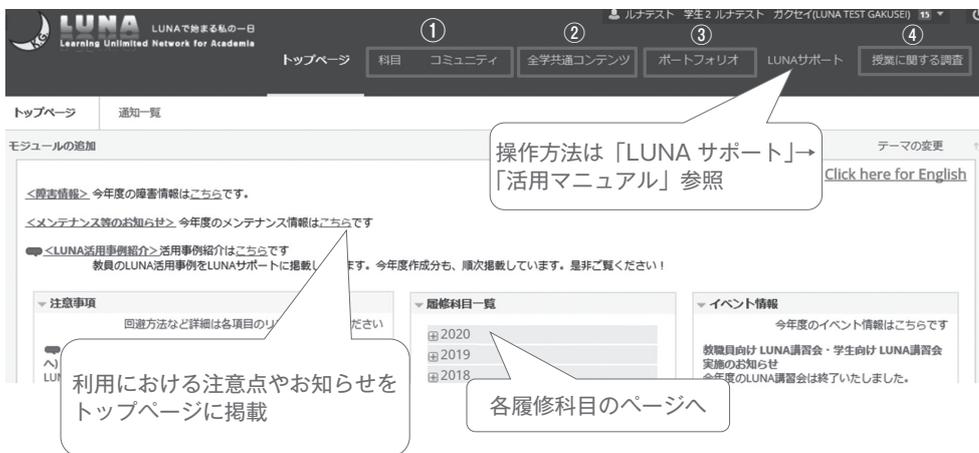
■アクセス方法

上記アドレスからログイン、もしくは情報システム Web サービスからアクセスしてください。
 また、ポートフォリオ機能を利用する場合は、スマートフォン専用アプリをダウンロードすると、プッシュ通知等の機能を拡充できます (アプリの利用料は無料ですが、ダウンロードや利用時にかかる通信料は利用者負担になります)。

PC からアクセスする場合



スマートフォンアプリをダウンロードする場合



●主な機能

①科目やコミュニティを利用する (PCのみ)

- ・教員からのお知らせを確認する
- ・教材をダウンロードする
- ・課題レポートを提出する
- ・テストに解答する
- ・課題レポートおよびテストの点数や提出状況を確認する
- ・掲示板で教員や履修者とコミュニケーションをとる

②全学共通コンテンツを利用する (PCのみ)

- ・情報倫理 自習教材
- ・留学定例報告書・協定校
- ・FactSheet閲覧サイト
- ・社会学部キーワード集
- ・『いつでも中国語』 付属 CD

③ポートフォリオを利用する (PC, モバイル)

- ・アンケートに回答する
- ・自分のことを知る
- ・目標をたてる
- ・学生生活を記録し振り返る
- ・蓄積された情報をダウンロードする

④学修行動と授業に関する調査に回答する (PCのみ)

本調査は学生のみなさんの学修行動・成果の振り返り、授業の改善、教育内容・環境の整備を目的として実施し、学期ごとに、実施期間が設けられます。学生のみなさんの学修行動の振り返りのための記録になるものですので、責任ある真摯な態度で調査に協力してください。

※利用する機能によっては、モバイル端末（スマートフォン、タブレット等）では正しく動作しません。

■K.G. ポートフォリオについて

本学のポートフォリオでは、パソコンやスマートフォンを利用し、GPA 等のスコア伸長、自身の強みチェック、目標設定とその振り返り、学修行動や成果の確認など直感的に把握ができます。さらに、各部署や授業担当者が上記の活動の記録の一部をみなさんのポートフォリオに登録するなど、バックアップやサポート体制があるのでいつでも気軽に始められます。日々の活動をより実りあるものにし、将来の就職活動や大学院進学など、自分のこれからのキャリアを考える時に、強気にサポートしてくれる頼もしいツールです。皆さんのよりよい未来のために、是非、ポートフォリオを役立ててください。

●トップページ

ポートフォリオにログインすると、PC やスマートフォンなどの機器によって適切な表示に自動的に切り替わります。以下は PC での画面になります。スマートフォンの場合は左右別の画面構成となり、トップページが表示されます。



⚠ 掲載している機能やデータ連携は2020年4月現在のものです。今後の利用状況を勘案し、機能やデータ連携を予告なく追加・停止する可能性があります。

学修状況機能のスコアタブにあるGPAや履修・修得単位数については、連携が反映されない時期があります。そのため、正式なGPAや単位数は教学Webサービスから確認してください。

進級や卒業に必要な単位数や科目等については、「履修心得」や「成績通知書」等を参考に各自で確認してください。

●ポートフォリオの記入内容について

ポートフォリオには、GPA のスコアなど、大学がポートフォリオにデータ提供している情報と、キャリアシート、目標など、学生のみなさんが新しく入力する情報の2種類があります。どちらの情報も個人の情報が他の学生に開示されることはありません。ポートフォリオの情報は大学と共有され、みなさんの取り組みを支援するため、権限が与えられた教職員が厳格な管理の下、メニューの各機能の情報を参照することがあります。

海外渡航する場合には大学に届け出が必要です

世界各地で発生するテロや自然災害等様々な問題への対応のために、関西学院大学では次の2点について把握することとし、有事発生時の対応に備えています。

- ① 大学主催以外のプログラム等で海外へ渡航する学生のみさんの渡航状況（大学主催プログラムは国際連携機構、プログラム実施学部等で把握）
- ② 大学主催プログラムの留学等での休暇中の学生のみさんの旅行状況

上記に該当する場合、ポートフォリオで海外渡航情報の登録をお願いします。（ポートフォリオアプリのダウンロードは本冊子15頁の「履修・学習に関する Web サイトには主に次の4つがあります」から確認ください。）

なお、本件は文部科学省「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」に基づく対応であり、登録された個人情報とは本目的の範囲外で利用することはありません。

〈ポートフォリオからの入力方法〉



一般注意事項

1. 学生証

学生証は常に携帯してください。試験や手続きの際は、必ず学生証の呈示が求められますので、紛失・汚損等の場合は早急に再発行手続きをとってください（再発行手数料が必要）。

2. 掲示・教学 Web サービス

大学における学生への連絡・通知は掲示および教学 Web サービスによることを原則としています。

登校時には必ず掲示板を、また定期的に教学 Web サービスを確認してください。掲示・教学 Web サービスを見なかったという理由で責任を逃れることはできません。

他研究科開講科目および大学院共通科目等についての掲示は、当該研究科や関連センター等の掲示板で行われますので、十分に注意してください。

なお、事務室への電話による問い合わせには一切応じません。

3. 研究科事務室開室時間

月曜日～金曜日 8：50～11：30、12：30～16：50

土 曜 日 8：50～12：20

ただし、行事等によって変更することがあります。また、5月、6月、9月、10月の第2土曜日および5月の第4土曜日は一斉土休となるため、事務室は閉室となります。

なお、夏季休暇中、冬季休暇中の事務室開室日および時間については、掲示により通知します。

4. 各種変更手続き

氏名に変更が生じた場合、速やかに所属研究科事務室に届け出てください。

現住所の変更については、教学 Web サービスで修正してください。

5. パソコンの利用

学内ではパソコン教室や図書館でパソコンを利用することができます。ただし、パソコン教室は授業で使用することがあるため、授業利用時以外（オープン利用時）のみ使用できます。各キャンパスのパソコン教室等の利用状況は、<https://ict.kwansei.ac.jp/> の「PC 教室空席状況」で確認することができます。

また、個人所有のデバイス（スマートフォン、タブレット、ノートパソコンなど）を学内のネットワークに接続して利用することもできます。

6. 証明書等

■証明書発行機の設置場所

設置場所		台数	利用時間帯
西宮上ヶ原	学生サービスセンター 1階	2台	月～金曜日 8:50～16:50 土曜日 8:50～12:20
	大学図書館 1階	1台	
	G号館 1階	1台	
神戸三田	I号館 1階	1台	
	VI号館 1階	1台	
大阪梅田	アプローチタワー14階（ラウンジ）	2台	月～金曜日 10:30～21:00 土曜日 10:30～20:00 日曜日 10:30～17:00
西宮聖和	I号館 1階 (教育学部・短期大学事務室前)	2台	月～金曜日 8:50～16:50 土曜日 8:50～12:20

※司法研究科の学生については、司法研究科事務室でも証明書の発行が可能です。

注) メンテナンス等により利用時間帯であっても使用できない場合がありますので注意してください。

利用に際しては、本人確認のため「学生証」およびパスワードが必要です。パスワードは入学時に仮パスワードとして各人の誕生日（1月7日生まれの場合は「0107」）があらかじめ発行機に登録されています。仮パスワードは、できるだけ早く任意のパスワードに各人で変更（証明書発行機で変更可能）を行ってください。

■証明書発行機で発行する証明書

○：発行可 ×：証明書発行機による発行不可

種類	和文	英文
在学証明書	○	○
成績証明書	○	○
修了見込・成績証明書（発行開始日は掲示で告知）	○	○
健康診断証明書	○	×
教育職員免許状取得見込証明書 *発行を希望する場合、研究科事務室に申し出てください。	×	×
学割証	○	×
修了・修士学位証明書（発行期間は掲示で告知）	○	○

■上記以外の各種申込書

証明書発行機で関係する各種「申込書」を購入のうえ、所属研究科等事務室に申し込んでください。発行は、原則として申し込みの翌日、証明書の種類によっては作成に2日以上かかる場合もあるため、余裕を持って申し込んでください。

7. 授業の欠席

本学には「公欠」制度はありません。病気や身内の死亡等でやむを得ず授業を欠席する場合も、その扱いは授業担当者の判断となります。やむを得ず授業を欠席する場合は、事前（不可能であれば事後）に直接授業担当者に相談してください。

■「学校保健安全法施行規則」に定める「学校において予防すべき感染症」のための登校停止の場合

罹患または罹患した疑いがある場合は、学内感染を予防するため登校停止としていますので、診断を受けた際はただちに所属する研究科事務室に電話連絡してください。教務上の配慮を行います。

なお、主治医から登校許可が出たら、「学校感染症・登校許可証明書」を記載してもらい、必ず登校時に研究科事務室へ提出してください。届出がない場合は、登校停止期間が確定できないため、教務上の配慮はできません。詳細は教務機構ホームページ（https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs）「感染症への対応について」を確認してください。

■裁判員制度による候補者として裁判員等選任手続きへの参加や裁判員・補充裁判員として職務に従事する場合

呼出状を持参のうえ、所属研究科事務室に申し出てください。教務上の配慮を行います。

8. 授業の長期欠席

病気等によって1ヵ月以上授業を欠席する場合は、所属研究科事務室に連絡の上、必要な手続きを行ってください。

9. 学 費

春学期と秋学期の2回に分けて学費を納入するシステムをとっています。

登録された住所に学費納入用紙を郵送しますので、各学期の納入期限までに納入してください。納入期限は曜日により前後することがありますので、詳しくは学費納入用紙を参照してください。

〈学費納入期限〉 春学期：5月19日

秋学期：11月9日

なお、学費未納が続く場合には除籍となります。詳細については学費納付規程を確認してください。

〈分納・延納手続〉

学費を分割して納入したい場合は最大3回まで分けることができます。また、期限までに納入することができない場合は納入期限を延長することができます。

いずれも納入期限までに所属研究科事務室で詳細確認の上手続きをしてください。

10. 各種相談

相談がある場合は、所属研究科事務室、所属する演習の担当教員、各教員のオフィス・アワーを利用してください。その他、学生生活の各種相談は学生生活支援機構、留学の相談は国際教育・協力センター、就職の相談はキャリアセンターで受け付けています。

また、総合支援センター学生支援相談室ではカウンセラーによる相談も行っています。健康上の問題については保健館を利用してください。

「剽窃」について

レポートや論文を作成する際、他人が書いた文章を「剽窃（ひょうせつ）」することは、絶対にしてはならない行為です。

学生として許されるべき行為でないだけでなく、違法行為ともなりえます。剽窃は「不正行為」として当該科目の成績、または特に悪質な場合は全科目の成績が無効となる場合がありますので、レポート等作成および提出の際は十分注意してください。

「剽窃」とはなにか

他の人によって書かれた論文、概念、文章などの著作（特に、他の人によって書かれた著作）の一部または全部を、あたかも自分自身が書いたものとして使用すること。あるいは、自分が書いたものと読んだ人に誤解を与えるように表記して「使用」すること。

文章全体を写すのではなく、表現を変えたりするなどして他人の文章のように書いたとしても「剽窃」とみなされます。

インターネット上のテキストの一部をコピー&ペーストし、表現を変えるなどして自分の意見のように書くことも「剽窃」とみなされます。

正しい「引用」をしましょう

レポートや論文の作成のために、他人の文章を用いる場合は必ずそれが引用であることを明記しなければなりません。どこまでが「他者が記述した内容」の紹介で、どこからが「自分の考え」かをはっきりさせることが必要です。

故意ではなく、不注意で行った場合も「剽窃」に変わりはありません。

決して「剽窃」をおこなわないように十分に気を付けてください。

〈MEMO〉

A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page below the header. It is intended for writing the content of the memo.

社会学研究科

社会学研究科の理念・目的・教育研究目標

〈理念〉

社会学研究科は、社会学および社会心理学の専門的かつ先端的研究の推進、専門的研究能力と技能の教育・育成、研究成果の社会への還元を通して、自由で自律的な個人から成る、開かれたよりよい社会の実現に寄与することを基本理念とする。

〈目的〉

社会学研究科は、社会学および社会心理学の先端的研究を推進するとともに、博士課程前期課程では、社会学または社会心理学の専門的知識と技能を身につけ、適切な研究テーマと課題の設定、および論理的かつオリジナルな分析を行なう能力と技能を身につけることによって、自らの専門性を通して、幅広く社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。さらに博士課程後期課程では、社会学または社会心理学の専門的研究に従事することによって、専門分野の研究の発展に寄与し、社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

〈教育研究目標〉

- 1) 研究方法や研究対象の専門分化にもとづきながら、それらを総合的に応用し、複雑化する現代社会を分析できる人材を育成する。
- 2) 論文執筆や外国語によるプレゼンテーションのための教育プログラムによって、国際的に通用する研究に貢献できる人材を育成する。
- 3) 博士学位（課程博士）取得に至るまでの段階・プロセスをモデル化するとともに、「博士学位キャンディデート」を授与することによって、博士学位（課程博士）の取得を促進する。

I 社会学研究科の教育

1. めざす学生像

博士課程前期課程では、社会学または社会心理学の専門的知識と技能を身につけ、適切な研究テーマと課題の設定、および論理的かつオリジナルな分析を行なう能力と技能を身につけることによって、課程修了後、自らの専門性を通して、幅広く社会に貢献できる大学院生。博士課程後期課程では、課程修了後、社会学または社会心理学の研究に従事することによって、専門分野の研究の発展に寄与し、社会に貢献できる大学院生。

2. ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

博士課程前期課程

1. **【態度・関心】** 社会学または社会心理学という専門性の見地から、さまざまな社会現象や社会問題を説明・理解しようとする強い意志と態度を身につけ、専門性にもとづいて、幅広く社会に貢献しようとする強い意欲を身につけている。
2. **【知識・思考】** 社会学または社会心理学という専門性の見地から、現実社会を分析していくための専門的知識と専門的思考力、社会調査についての専門的知識を身につけるとともに、高度に専門分化した知識をより大きな文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。
3. **【技能・表現】** ジェネリック・スキル（ICTを用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など）を、社会学または社会心理学という専門性のレベルで活用する力を身につけているとともに、同様のレベルで、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケーションするためのスキルを身につけている。さらに、社会調査についての専門的な技能を身につけている。
4. **【統合的能力】** 上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、先行研究にもとづいて、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけている。

参考：「修士学位論文の審査基準」（47頁参照）、「修士学位取得プロセス〈モデル〉」（48頁参照）

博士課程後期課程

1. **【態度・関心】** 自らの専門的研究を発展させ、社会学または社会心理学の研究に従事していこうとする強い意志と態度を身につけ、専門的研究を通して社会に貢献しようとする強い意欲を身につけている。
2. **【知識・思考】** 自らの専門的研究を発展させていくために必要な専門的知識と専門的思考力を身につけるとともに、自らの専門的研究を他の関連する専門的研究の文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。
3. **【技能・表現】** ジェネリック・スキルを、自らの専門的研究を発展させるという見地から活用する力を身につけているとともに、同様の見地から、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケーションするためのスキルを身につけている。
4. **【統合的能力】** 上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、当該の専門分野における研究を確実に前進させる、優れた研究業績を発表する能力と技能を身につけている。

参考：「博士学位論文の審査基準」（47頁参照）、「博士学位取得プロセス〈モデル〉」（49頁参照）

3. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

社会学研究科は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にもとづいて、以下の科目を系統的に配置する。

「社会学研究演習」（指導教員・副指導教員）

社会学または社会心理学という専門性にもとづいた態度・関心、知識・思考を身につけるとともに、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけるための科目（DP-1、2、4）

「セオリー/モデル系」科目（「社会学理論講義A・B」「社会心理学講義A・B」等）

特定の領域・方法に偏ることなく社会的ならびに社会心理学的発想の基礎を幅広く習得し、柔軟な思考力を身につけるための科目（DP-2）

「フィールド/メソッド系」科目（「社会学特殊講義A～J」「社会学特殊研究A～J」）

より専門的で、領域や方法に焦点をあてた知識や技能を身につけるための科目（DP-2、3）

「リサーチ/データ/プレゼンテーション系」科目（「社会調査論」「フィールドワーク演習」「社会統計学Ⅰ～Ⅲ」等）

社会調査に関する知識・技能・分析方法を身につけるための科目（DP-2、3）

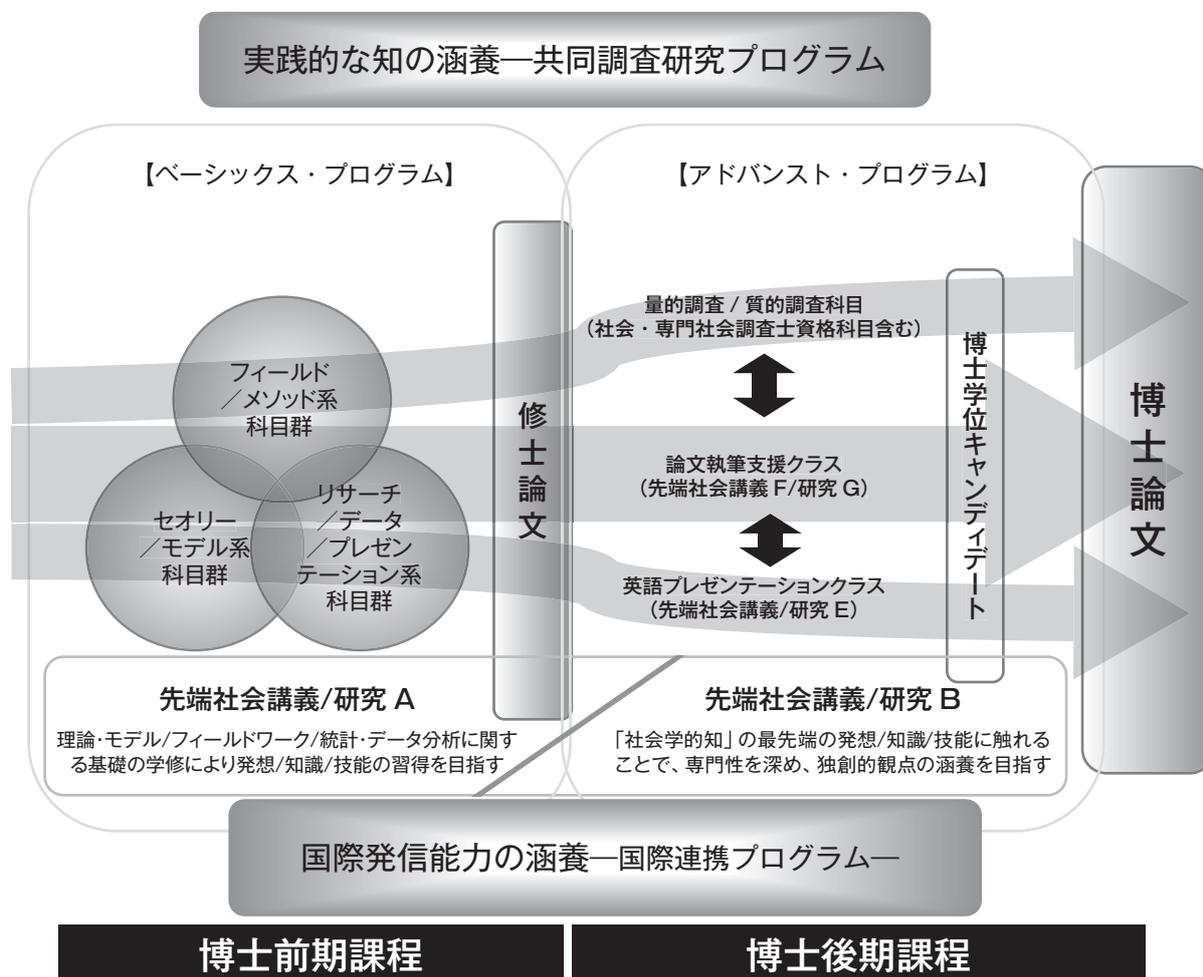
オプションプログラム

「先端社会講義A～J」「先端社会研究A～J」

3つの系をバランスよく身につけるための科目（DP-2）、英語でのプレゼンテーション技能を身につけるための科目（DP-3）、学术论文の執筆方法を身につけるための科目（DP-4）

参考：「カリキュラム／プログラム体系図」

カリキュラム／プログラム体系図



4. キリスト教主義にもとづく教育

関西学院大学では、その土台となるキリスト教主義教育の活動のひとつとして、各学部・研究科でチャペルアワーを行っている。これは学院130年の歴史のなかでほぼ毎日、キャンパスのどこかで持たれてきたプログラムであり、朝のひとつ、学生・教員が共に集まり、関西学院で学ぶことの意味、さらに広く「生きる」ことの意味を静かに考えるときとして、この大学で過ごす全ての人々に開かれた大切な時間となっている。

■社会学部・社会学研究科のチャペルアワー

曜日：毎週火曜日、水曜日、木曜日

時間：10：35～11：05

場所：社会学部チャペル（社会学部1階）

Ⅱ カリキュラム

1. 修了要件

【前期課程】

次の(1)～(3)すべてを満たさなければなりません。

- (1) 所定単位数(32単位)の修得及び2年以上の在学
- (2) 外国語学力(英語)の認定
- (3) 修士論文の審査・最終試験の合格

【後期課程】

次の(1)～(3)すべてを満たさなければなりません。

- (1) 所定単位数(20単位)の修得及び3年以上の在学
- (2) 外国語学力(英語)の認定
- (3) 博士論文の審査・最終試験の合格

ただし、特に優れた研究業績をあげた場合、博士課程に3年(前期課程2年または修士課程2年を含む)以上在学すれば足りるものとします。

また、後期課程に3年以上在学し、所定単位数を修得した者は当該学期末をもって退学するものとします(退学届は2月中に提出してください)。

2. 修了に必要な修得単位数

課程・専攻	所定単位数	履修科目
前期課程 社会学専攻 (アカデミックコース)	32単位	社会学研究演習(指導教員・副指導教員) A・B各8単位 16単位 社会学文献講読(英) A・B各2単位 4単位 社会学理論講義 A・Bまたは社会心理学講義 A・B 4単位 その他指導教員が履修を指導する科目 8単位
前期課程 社会学専攻 (専門社会調査士コース)	32単位	社会学研究演習(指導教員) A・B各4単位 8単位 調査企画演習 2単位 調査統計演習 2単位 フィールドワーク演習 2単位 統計解析演習 A・B・C各2単位 6単位 社会学文献講読(英) A・B各2単位 4単位 その他指導教員が履修を指導する科目 8単位
後期課程 社会学専攻	20単位	社会学研究演習(指導教員) A・B各6単位 12単位 社会学文献研究(英) A・B各2単位 4単位 その他指導教員が履修を指導する科目 4単位

社会学文献講読 A・B(前期課程)、社会学文献研究 A・B(後期課程)は、学位授与のための必修科目です。ただし、博士課程後期課程在学学生に限り、『外国語学力認定試験』に合格することによって、社会学文献研究 A・Bの履修が免除されます。

また、「その他指導教員が履修を指導する科目」については、指導教員の指導によって、これを定めます。

なお、場合によっては学部授業の履修を指導(履修登録は不要)することがありますが、単位認定は行いません。

3. 授業科目

関西学院大学 大学院学則

第3章 教育課程 第4節 社会学研究科

第21条 社会学研究科社会学専攻における授業科目並びにその単位数を次のとおりとする。

社会学専攻

1 博士課程前期課程

1) a群

社会学研究演習 A	2	社会学研究演習 B	2
社会学合同研究演習 A	2	社会学合同研究演習 B	2
社会学理論講義 A	2	社会学理論講義 B	2
社会心理学講義 A	2	社会心理学講義 B	2
社会思想史特殊講義 A	2	社会思想史特殊講義 B	2
社会学説史特殊講義 A	2	社会学説史特殊講義 B	2
社会学特殊講義 A	2	社会学特殊講義 B	2
社会学特殊講義 C	2	社会学特殊講義 D	2
社会学特殊講義 E	2	社会学特殊講義 F	2
社会学特殊講義 G	2	社会学特殊講義 H	2
社会学特殊講義 I	2	社会学特殊講義 J	2
社会学実習 A	1	社会学実習 B	1
社会学文献講読(英) A	2	社会学文献講読(英) B	2
社会学文献講読(英) C	2	社会学文献講読(英) D	2
社会学文献講読(独) A	2	社会学文献講読(独) B	2
社会学文献講読(仏) A	2	社会学文献講読(仏) B	2
社会学文献講読(英・独・仏以外の外国語) A	2		
社会学文献講読(英・独・仏以外の外国語) B	2		

2) b群

社会調査論	2	調査企画演習	2
調査統計演習	2	フィールドワーク演習	2
統計解析演習 A	2	統計解析演習 B	2
統計解析演習 C	2		
社会統計学 I	2	社会統計学 II	2
社会統計学 III	2	標本調査法	2
社会調査特論 A	2	社会調査特論 B	2
社会調査特論 C	2	社会調査特論 D	2
社会調査特論 E	2	社会調査特論 F	2

3) c群

先端社会講義 A	2	先端社会講義 B	2
先端社会講義 C	2	先端社会講義 D	2
先端社会講義 E	2	先端社会講義 F	2
先端社会講義 G	2	先端社会講義 H	2
先端社会講義 I	2	先端社会講義 J	2

上記の授業科目のうち、社会学専攻については、社会学研究演習 A 8 単位、社会学研究演習 B 8 単位、社会学文献講読(英) A 2 単位、社会学文献講読(英) B 2 単位を必修科目、社会学理論講義 A 及び B 各 2 単位計 4 単位もしくは社会心理学講義 A 及び B 各 2 単位計 4 単位のうちいずれか一方 4 単位を選択必修科目とする。なお、必修科目としての研究演習計 16 単位は指導教員及び社会学研究科内規に定める副指導教員の研究演習を指すが、指導教員及び副指導教員の指示に従って、必修科目として履修する指導教員及び副指導教員以外の研究演習を履修し単位を修得することができる。

2 博士課程後期課程

1) a群

社会学研究演習 A	2	社会学研究演習 B	2
社会思想史特殊研究 A	2	社会思想史特殊研究 B	2
社会学説史特殊研究 A	2	社会学説史特殊研究 B	2
社会学特殊研究 A	2	社会学特殊研究 B	2
社会学特殊研究 C	2	社会学特殊研究 D	2
社会学特殊研究 E	2	社会学特殊研究 F	2
社会学特殊研究 G	2	社会学特殊研究 H	2
社会学特殊研究 I	2	社会学特殊研究 J	2
社会学実習 A	1	社会学実習 B	1
社会学文献研究(英) A	2	社会学文献研究(英) B	2
社会学文献研究(英) C	2	社会学文献研究(英) D	2
社会学文献研究(独) A	2	社会学文献研究(独) B	2
社会学文献研究(仏) A	2	社会学文献研究(仏) B	2
社会学文献研究(英・独・仏以外の外国語) A	2		
社会学文献研究(英・独・仏以外の外国語) B	2		

2) b群

社会調査論	2	調査企画演習	2
調査統計演習	2	フィールドワーク演習	2
統計解析演習 A	2	統計解析演習 B	2
統計解析演習 C	2		
社会統計学 I	2	社会統計学 II	2
社会統計学 III	2	標本調査法	2
社会調査特殊研究 A	2	社会調査特殊研究 B	2
社会調査特殊研究 C	2	社会調査特殊研究 D	2
社会調査特殊研究 E	2	社会調査特殊研究 F	2

3) c群

先端社会研究 A	2	先端社会研究 B	2
先端社会研究 C	2	先端社会研究 D	2
先端社会研究 E	2	先端社会研究 F	2
先端社会研究 G	2	先端社会研究 H	2
先端社会研究 I	2	先端社会研究 J	2

上記の授業科目のうち、社会学専攻については社会学研究演習 A 6 単位、社会学研究演習 B 6 単位及び社会学文献研究(英) A・B 各 2 単位計 4 単位を必修科目とする。

第22条 学生は入学後所定の期日内に専攻における大学院指導教員のうちから指導教員を定め、その指導のもとに授業科目の選択及び学位論文の作成などを行うものとする。

2 博士課程前期課程の必要修得単位数は32単位とする。

3 博士課程後期課程の必要修得単位数は20単位とする。

4. 社会学研究科 科目ナンバリング

本学のナンバリング体系に基づく、社会学研究科の科目ナンバリングは以下の通りである。

【全学のナンバリング体系】

ナンバー	位置づけ	位置づけ詳細
500	博士課程前期課程の科目	・博士課程前期課程の基本的な内容を扱う授業科目 ・全研究科の大学院生を対象に開講する大学院共通科目
600		・博士課程前期課程で学修する最終段階の水準科目 ・博士課程前期課程で学修する実践的・専門的に極めて高度な内容を扱う授業科目
700	博士課程後期課程の科目	・博士課程後期課程において専門性が高い内容を扱う授業科目
800		・博士学位論文作成に関する研究指導科目および学術論文作成等の研究指導科目

ナンバー	位置づけ	位置づけ詳細
500	専門職学位課程の科目	・専門職学位課程の基本的または必須の内容を扱う授業科目
550		・専門職学位課程の基本的または必須の内容を発展させた、より専門性が高い授業科目
600		・専門職学位課程で学修する最終段階の水準科目 ・専門職課程で学修する実践的・専門的に極めて高度な内容を扱う授業科目

【博士課程前期課程】

ナンバー	科 目			
500	社会学理論講義A・B 社会思想史特殊講義A・B 社会学文献講読(英)A～D 社会学文献講読(英・独・仏以外の外国語)A・B 社会調査論 統計解析演習A～C 標本調査法 先端社会講義A～J	社会心理学講義A・B 社会学説史特殊講義A・B 社会学文献講読(独)A・B 社会学文献講読(英・独・仏以外の外国語)A・B 調査企画演習 社会統計学I 社会調査特論A～F	調査統計演習 社会統計学II	社会学特殊講義A～J 社会学文献講読(仏)A・B フィールドワーク演習 社会統計学III
600	社会学研究演習A・B	社会学合同研究演習A・B		

【博士課程後期課程】

ナンバー	科 目			
700	社会思想史特殊研究A・B 社会学文献研究(英)A～D 社会学文献研究(英・独・仏以外の外国語)A・B 社会調査論 統計解析演習A～C 標本調査法 先端社会研究A～J	社会学説史特殊研究A・B 社会学文献研究(独)A・B 社会学文献研究(英・独・仏以外の外国語)A・B 調査企画演習 社会統計学I 社会調査特殊研究A～F	調査統計演習 社会統計学II	社会学特殊研究A～J 社会学文献研究(仏)A・B フィールドワーク演習 社会統計学III
800	社会学研究演習A・B			

5. 授業・成績

1. セメスター制度

本研究科では1年間を次の2学期に分けています。

春学期：4月1日～9月19日（15週）

秋学期：9月20日～3月31日（15週）

2. 授業時間

1回あたりの授業時間は90分であり、制度上これを「2時間」と言い表しています。

3. 単位

授業単位毎に単位数が定められています。

授業を履修し最終評価で合格することで単位が与えられます。

4. 成績評価基準

- ・成績発表は原則として素点（100点満点）で行います。60点以上が合格です。
- ・成績証明書には、合格した授業科目・修士論文について次のように記載されます。
- ・59点以下の科目は成績証明書には記載されません。

【前期課程】

2014年度以前入学生

全ての授業科目 修士論文	成績評価 素点	優	良	可	不可
		80～100点	70～79点	60～69点	0～59点

2015年度以降入学生

修士論文	成績評価	優			良		可		不可
	素点	80～100点			70～79点		60～69点		0～59点
全ての授業科目	成績評価	S	A+	A	B+	B	C+	C	F
	素点	90～ 100点	85～ 89点	80～ 84点	75～ 79点	70～ 74点	65～ 69点	60～ 64点	0～ 59点
	GP	4.0	3.5	3.0	2.5	2.0	1.5	1.0	0

※ 2015年度以降入学生より、GPA（Grade Point Average）制度が導入されました。

※ 先端社会講義Ⅰ、先端社会講義Ⅱは、GP（Grade Point）を付与しない科目です。

【後期課程】

優	良	可	不可
80～100点	70～79点	60～69点	0～59点

なお、司法研究科および経営戦略研究科で修得した科目の成績は、次のように換算します。

【司法研究科開講科目】

A+	A	B+	B	C+	C	D
95点	85点	77点	72点	67点	62点	0点

【経営戦略研究科開講科目】

A+	A	B+	B	C+	C	F
95点	87点	82点	77点	72点	65点	0点

5. 成績調査について

成績評価について疑義のある場合は、一定期間内に所定の手続きにより調査を願い出ることができます。期間については掲示でお知らせします。

6. 授業に関する連絡

授業に関する履修者への連絡は掲示板に掲示するほか、教学 Web サービスでも行います。なお、休講、補講、教室・時間割変更については、教学 Web サービスのみでの連絡になります。

教学 Web サービス <https://webinfo.kwansei.ac.jp/> (https → s が必要)

7. 課題の提出

授業の課題の提出先として社会学部事務室を指定された場合は、掲示を確認のうえ、次のとおり提出してください。下図は表紙の見本です。

①リポート番号（指示されている場合）、授業科目名、リポート題目（タイトル）、担当者名、研究科名、学生番号、氏名を明記したうえで提出してください。

②「リポート受領証」に必要事項を記入し、事務局の受付印をもらったうえで、本人控を保管してください。

(注) 郵送や電子メールによる提出、提出期日・時刻に遅れたリポートは受け付けません。

ホッチキスで上部2箇所をとめてください

リポート番号 ○

授業科目名：○○○○○○○○

リポート題目：○○○○○○○

担当者：○○ ○○ 教授

社会学研究科
43018111 ○○ ○○

リポート番号が指示されている場合、その番号を記入

[図 リポート表紙見本]

リポート作成時の剽窃行為（他人のリポートを写す、インターネットなどの情報をコピーする、など）は、当然のことですが、許される行為ではありません。

もし、このような行為が判明した場合は厳しく対処します。リポート等の作成に際して剽窃行為を決して行わないよう強く注意を喚起します。

6. オプションプログラム（先端社会講義／研究）

本プログラムは、文部科学省の「組織的な大学院教育改革推進プログラム」（2008～2010年）に本研究科の「社会の幸福に資するソーシャル・リサーチ教育—ソシオリテラシーの涵養」が採択されたことを契機に設置され、現在は、学内の先端社会研究所との連携のもとに運営されています。

あえて必修科目としていないのは、（全て重複履修可の科目であることからわかるように）大学院生の主体的なニーズに応えるためであり、自己の研究にとって履修することが必要であると「気づいたときに役に立つ」準必修科目として受けとめてもらうことを意図しています。

なお、科目によって、開講形態・履修形態が異なるので注意してください。

（1）先端社会講義A/研究A（前期課程・後期課程の合併科目）

先端社会講義B/研究B（前期課程・後期課程の合併科目）

社会を対象とした研究（ソシオリテラシー）の基礎と応用を学ぶ科目。

Aは、3つの系ごとに、三人の教員が社会科学的思考の基礎を丁寧に指導します。

Bは、六人の教員がオムニバス形式で、それぞれの専門領域の最先端の研究についてわかりやすく講義します。

※1年生はどちらの科目も履修することが望ましいため、強く推奨します。

（2）先端社会講義E/研究E（前期課程・後期課程の合併科目）

英語でのプレゼンテーションの方法について学ぶ科目。

※英語による研究発表を希望する大学院生は、春学期から履修することが望ましいため、強く推奨します。

（3）「先端社会講義F」（前期課程）

「先端社会研究G」（後期課程）

学術論文の執筆方法について学ぶ科目。

レフェリー付きの学会誌や書評誌への投稿論文の書き方や改稿の仕方についてはもとより、修士論文や博士論文の執筆方法について丁寧に指導します。

（4）「先端社会講義I/研究I」（前期課程・後期課程の合併科目）

「先端社会講義J/研究J」（前期課程・後期課程の合併科目）

大学院生教育のサポートのための科目。

土曜日の1・2時限に配置しているが、実際には（変形）集中開講の形態をとり、書評誌（『KG社会学批評』）への投稿にノミネートした大学院生や、英語で研究報告をする大学院生等にたいして、適宜、研究支援を行います。

※本科目は履修登録するものではなく、積極的に参加した大学院生に対して単位認定するものです。

※本科目は修了要件、GPA および平均点には算入しません。

※先端社会講義A～J、先端社会研究A～Jは全て重複履修可。

7. 2009年度からのカリキュラムの改編内容について

文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」に連動し、学生からも学外からもわかりやすい「シンプルかつ系統的な」カリキュラムとなるよう改編を実施しています。

【主な改編内容】

- ・ 通年科目の廃止（すべての科目を Semester 開講とした）（履修登録も春・秋の2回）
- ・ 不開講科目の統廃合
- ・ 共通で履修することが望ましいベーシック科目以外は原則として「特殊講義」（前期課程）または「特殊研究」（後期課程）へ集約
- ・ 前期課程アカデミックコースは指導教員および副指導教員の社会学研究演習を必修化（専門社会調査士コース、後期課程は副指導教員の社会学研究演習を学則上必修とはしていないが、各自の履修計画、支障がなければ履修することが望ましい）
- ・ 前期課程専門社会調査士コースの修了要件については、従来の選択必修科目の設定を廃止し別途必修科目を指定（詳細は社会学研究科内規参照）
- ・ 専門社会調査士コース関連科目については、次のとおりレベル順の積み上げ方式にて科目履修が可能となるよう科目配置
 - （1） 社会調査士資格科目
 - （2） 専門社会調査士資格科目
 - （3） 統計科目の最上級科目（統計解析演習A・B・C）
- ・ 前期課程科目を a 群、b 群、c 群に分け、科目属性を明示
- ・ 前期課程、後期課程で科目名称を整理・統一（前期課程：○○講義、後期課程：○○研究など）

以上のように改編し、学則や内規を改正しているが、学則や内規は入学年度によって適用される内容が異なるため、履修登録等の手続に際しては、入学年度別の記載事項を十分に確認すること。

2008年度まで開講されていた科目の多くが科目名称変更または科目廃止となり、科目の新設も数科目行っている。

Ⅲ 指導教員

学生は1名の指導教員と1名の副指導教員の指導により授業科目を選択し、論文の作成等、研究一般について指導を受けるものとします（社会学研究科内規6）。

※2009年4月入学生より副指導教員は1名に変更しています。

1. 指導教員

大学院入学試験受験時に志望した指導教員が研究科における指導教員となります。
授業の履修をはじめ、研究に関することについては指導教員の指導に従ってください。

2. 副指導教員

社会学研究科では、副指導教員制度を採用しています。

- ・大学院学生は、指導教員と相談のうえ1名の副指導教員を決めてください。
- ・副指導教員は、前期課程学生および後期課程学生のいずれの場合も大学院指導教員とします。

副指導教員については、年度始めに次の書類の提出をもって社会学研究科に届け出てください。

[前期課程学生] 1年生……………副指導教員届（入学前に提出）

2年生……………修士論文計画書

[後期課程学生] 1年生……………副指導教員届（入学前に提出）、年次研究計画書

2、3年生……………年次研究計画書

3. 大学院指導教員一覧（2020年度）

氏名	前期課程指導	後期課程指導	氏名	前期課程指導	後期課程指導
赤江 達也	○		関 嘉寛	○	○
阿部 潔	○	○	高原 基彰	○	
石田 淳	○		立石 裕二	○	○
稲増 一憲	○	○	田中 耕一	○	○
今井 信雄	○		陳 立行	○	○
岩渕 功一	○	○	中野 康人	○	
大岡 栄美	○		長松 奈美江	○	
大谷 信介	○	○	難波 功士	○	○
荻野 昌弘	○	○	野瀬 正治	○	○
奥村 隆	○	○	野波 寛	○	○
金菱 清	○	○	ハード ガブリエレ	○	
貴戸 理恵	○		三浦 耕吉郎	○	○
金 明秀	○		宮原 浩二郎	○	○
倉島 哲	○	○	村田 泰子	○	
桑山 敬己	○	○	森 久美子	○	○
佐藤 哲彦	○	○	森 康俊	○	
島村 恭則	○	○	横田 伸子	○	○
清水 裕士	○		吉田 寿夫	○	
鈴木 謙介	○		渡邊 勉	○	
鈴木 慎一郎	○	○			

IV 授業の履修

1. 履修登録

指導教員および副指導教員から指導を受け、履修科目を決定し履修登録をしてください。

【春学期 履修登録期間】 4月1日(水) 8:50～4月3日(金) 16:50

【秋学期 履修登録期間】 9月7日(月) 9:00～9月9日(水) 16:00

◆履修登録手続の流れ

- (1) 履修登録関係書類（授業時間割・大学院履修心得・聴講用履修届）を受け取る。
- (2) 必修科目の曜日・時限を確認の上、その他履修を希望する科目を選定する。
 - ・各研究科の開講授業科目シラバスは3月上旬より閲覧可能です。
 - ・大学院生用履修・学習要覧 Web サイト
(https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_002499.html)
- (3) 指導教員および副指導教員から履修指導を受け、履修科目を決定する。
- (4) 教学 Web サービス (<https://webinfo.kwansei.ac.jp>) から履修登録を行う。
 - ・教学 Web サービスでの履修登録方法については、教学 Web サービスにログイン後、マニュアル→履修・成績・授業時間割マニュアルから「学生メニュー操作マニュアル」をダウンロードして確認してください。

◆履修関係書類の提出

下記制度の利用希望者は上記履修登録期間内に手続きをしてください。
研究科内聴講履修、学内他研究科履修、関西四大学大学院単位互換履修
提出場所：社会学部事務室
提出書類：大学院履修届（聴講履修用）
学内他研究科履修届
関西四大学大学院単位互換履修生願書

◆修士論文計画書、年次研究計画書の提出

提出期限：4月17日(金) 16:50

- ・前期課程学生は、修士論文の提出にあたり、提出年度の4月に「修士論文計画書」を研究科副委員長、指導教員および副指導教員に提出してください。
(研究科副委員長用は社会学部事務室に提出してください。)
社会学研究科研究成果発表会（2月開催）でその成果を発表いただきます。
- ・後期課程学生は、毎年4月にその年度内に行う研究についての「年次研究計画書」を研究科副委員長、指導教員および副指導教員に提出してください。
(研究科副委員長用は社会学部事務室に提出してください。)
社会学研究科研究成果発表会（2月開催）でその成果を発表いただきます。

2. 履修指導期間

大学院学生の履修登録授業科目の選択については、指導教員および副指導教員から、履修指導期間に十分な指導を受けるようにしてください。

新入生…… 4月1日(水)～4月3日(金) (入学式より前に相談可)

在学生…… 3月23日(月)～4月3日(金)

※指導教員の連絡先(メール等)がわからない場合は、社会学部事務室に相談してください。

※秋学期は、履修登録期限までに指導を受けてください。

※指導を受ける日時は、早めに指導教員および副指導教員に相談して決めてください。

3. 履修上の注意事項

※修士論文を提出するためには、主査(指導教員)の「修士論文」を履修する必要がありますので注意してください。

※教育課程表等の記号

社会学研究科時間割では、各課程別に学則上配置されている授業科目(「大学院学則」第3章第4節参照)について、それぞれ次のとおり記号を使用します。

M = 前期課程 社会学専攻

D = 後期課程 社会学専攻

(1) 単位修得済授業科目の重複履修制限

既に単位を修得した授業科目を再度履修することはできません(聴講履修可)。

ただし、次の授業科目は例外として重複履修を認めています。

- | | | |
|---------------|------------------|--------------|
| ・社会学研究演習 A | ・社会学文献講読/研究(英) A | ・先端社会講義/研究 A |
| ・社会学研究演習 B | ・社会学文献講読/研究(英) B | ・先端社会講義/研究 B |
| ・社会学特殊講義/研究 A | ・社会学文献講読/研究(英) C | ・先端社会講義/研究 C |
| ・社会学特殊講義/研究 B | ・社会学文献講読/研究(英) D | ・先端社会講義/研究 D |
| ・社会学特殊講義/研究 C | ・社会学文献講読/研究(独) A | ・先端社会講義/研究 E |
| ・社会学特殊講義/研究 D | ・社会学文献講読/研究(独) B | ・先端社会講義/研究 F |
| ・社会学特殊講義/研究 E | ・社会学文献講読/研究(仏) A | ・先端社会講義/研究 G |
| ・社会学特殊講義/研究 F | ・社会学文献講読/研究(仏) B | ・先端社会講義/研究 H |
| ・社会学特殊講義/研究 G | ・社会学文献講読/研究 | ・先端社会講義/研究 I |
| ・社会学特殊講義/研究 H | (英・独・仏以外の外国語) A | ・先端社会講義/研究 J |
| ・社会学特殊講義/研究 I | ・社会学文献講読/研究 | |
| ・社会学特殊講義/研究 J | (英・独・仏以外の外国語) B | |
| ・社会学実習 A | | |
| ・社会学実習 B | | |

(2) 同一授業科目の同じ年度での並行履修不可

同じ学期に複数クラス開講される同一授業科目を並行して正規の履修登録をすることはできません。(聴講履修可)

[例] 「社会学文献講読／研究(英)A・B」の1組、2組の並行履修は不可

※1組=社会学、2組=社会心理学

ただし、次の授業科目は例外として並行履修を認めています。

- ・社会学研究演習A・B
- ・社会学特殊講義E・F
- ・社会学実習A・B
- ・社会学特殊研究E・F

(3) 課程をまたがる履修の可否

		「正規の履修」	「聴講履修」
前期課程学生 → 学則上の後期課程の授業科目	×	×	○
後期課程学生 → 学則上の前期課程の授業科目	×	×	○

(4) 研究科内聴講履修

社会学研究科では、単位修得はできないが、正規の履修以外にも広く学習機会を提供することを目的に、「聴講履修」を認めています。既に修得した科目についても聴講履修は可能です。

ただし、他研究科・他大学院開講の授業科目は聴講できません。

授業への出席・参画は正規の履修者同様に臨み、いわゆる「カラ履修」のないよう注意してください。教学 Web サービスでの履修申請手続は不要です。

なお、正規の履修者がいない場合、その授業科目は不開講となります。

(5) 学内他研究科履修

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として、学内他研究科の授業科目を履修することができます。単位の取扱いについては、履修前に社会学部事務室で確認してください。

なお、受入研究科の都合により履修できない場合や履修条件が設定されている科目もあるため、必ずシラバスや掲示を確認してください。その他、希望する科目について、開講研究科学生の正規履修者がいない場合、当該科目は不開講となるので注意してください(ただし、開講研究科が認めた場合は、この限りではありません)。

※ EUIJ Certificate プログラムにより学内他研究科履修する場合もこの手続を行ってください。

※ 教職免許取得のために他研究科履修を希望する場合は、まず社会学部事務室で相談してください。

〈履修手続き〉

1. 他研究科の授業科目履修について、指導教員に履修理由の説明も含めて相談のうえ、了解を得る。
2. 履修を希望する授業科目を開講している研究科(学部)事務室に申し出て、履修の了解を得る。
3. 所定用紙を社会学部事務室に提出する。

(6) 大学院共通科目

指導教員が研究上特に必要と認めた場合に限り、各研究科における選択科目として履修することができます。修得した単位については、博士課程前期課程又は修士課程において10単位までを所定の単位数に算入することができます。

開講科目は、大学院生用履修・学習要覧 Web サイトを確認してください。

(7) 関西四大学大学院単位互換履修

関西四大学（関西大学・同志社大学・立命館大学）の間では、大学院学生の単位互換履修交流に関する協定により、単位認定を行っています。

履修を希望する場合は、指導教員と相談のうえ、他大学大学院の講義シラバスは各大学ホームページまたは教務機構事務部にて、時間割等は各研究科事務室にて確認し、所定の「関西四大学大学院単位互換履修生願書」を社会学部事務室に提出してください。

〈履修手続き〉

1. 他大学院の授業科目履修について、指導教員の了解を得る。
2. 申し込みに先がけて、指導教員から、希望する他大学大学院授業科目の担当教員に連絡をとってもらい、予め了解を求める。
3. 所定の「関西四大学大学院単位互換履修生願書」を社会学部事務室に提出する。

(8) 掲示による各種の連絡、配布物・提出物

大学院学生への各種の連絡・通知は、掲示または教学 Web サービスで行います。

各種配付物（履修関係書類等）および各種の提出物（履修届、レポート等）は、原則社会学部事務室カウンターで直接受け渡しとします。

ご自身での受け渡しが困難な場合は、提出の場合は代理提出、受け取りの場合は委任状添付での代理受領などの手配を各自の責任で行ってください。

4. 履修モデル

【前期課程 社会学専攻 アカデミックコース】

	必修科目	選択必修科目	その他	
1年次 春学期	社会学研究演習A（指導教員）② 社会学研究演習A（副指導教員）② 社会学文献講読（英）A②	社会学理論講義A② もしくは 社会心理学講義A②	先端社会講義A② 先端社会講義I 1[*] 先端社会講義J 1[*] など	
1年次 秋学期	社会学研究演習B（指導教員）② 社会学研究演習B（副指導教員）② 社会学文献講読（英）B②	社会学理論講義B② もしくは 社会心理学講義B②	先端社会講義B② 先端社会講義I 2[*] 先端社会講義J 2[*] など	
2年次 春学期	社会学研究演習A（指導教員）② 社会学研究演習A（副指導教員）②		先端社会講義E 1② 先端社会講義F 1② 先端社会講義I 1[*] 先端社会講義J 1[*] など	
2年次 秋学期	社会学研究演習B（指導教員）② 社会学研究演習B（副指導教員）②		先端社会講義B② 先端社会講義E 2② 先端社会講義F 2② 先端社会講義I 2[*] 先端社会講義J 2[*] など	合計
必要単位	20	4	8	32

②：2単位

*：先端社会講義I、Jは各2単位。ただし、修了要件、GPAおよび平均点には算入しない。

[前期課程 社会学専攻 専門社会調査士コース]

	必修科目	その他	
1年次 春学期	社会学研究演習A（指導教員）② 調査企画演習② 調査統計演習② 社会学文献講読（英）A②	社会学研究演習A（副指導教員）② 先端社会講義A② 先端社会講義I 1[*] 先端社会講義J 1[*] など	
1年次 秋学期	社会学研究演習B（指導教員）② フィールドワーク演習② 社会学文献講読（英）B②	社会学研究演習B（副指導教員）② 先端社会講義B② 先端社会講義I 2[*] 先端社会講義J 2[*] など	
2年次 春学期	社会学研究演習A（指導教員）② 統計解析演習A② 統計解析演習B② 統計解析演習C②	社会学研究演習A（副指導教員）② 先端社会講義E 1② 先端社会講義F 1② 先端社会講義I 1[*] 先端社会講義J 1[*] など	
2年次 秋学期	社会学研究演習B（指導教員）②	社会学研究演習B（副指導教員）② 先端社会講義B② 先端社会講義E 2② 先端社会講義F 2② 先端社会講義I 2[*] 先端社会講義J 2[*] など	合 計
必要単位	24	8	32

②：2単位

*：先端社会講義I、Jは各2単位。ただし、修了要件、GPA および平均点には算入しない。

[後期課程 社会学専攻]

	必修科目	その他	
1 年次 春学期	社会学研究演習 A (指導教員) ② 社会学文献研究 (英) A ②	社会学研究演習 A (副指導教員) ② 先端社会研究 A ② 先端社会研究 E 1 ② 先端社会研究 G 1 ② 先端社会研究 I 1 [*] 先端社会研究 J 1 [*] など	
1 年次 秋学期	社会学研究演習 B (指導教員) ② 社会学文献研究 (英) B ②	社会学研究演習 B (副指導教員) ② 先端社会研究 B ② 先端社会研究 E 2 ② 先端社会研究 G 2 ② 先端社会研究 I 2 [*] 先端社会研究 J 2 [*] など	
2 年次 春学期	社会学研究演習 A (指導教員) ②	社会学研究演習 A (副指導教員) ② 先端社会研究 G 1 ② 先端社会研究 I 1 [*] 先端社会研究 J 1 [*] など	
2 年次 秋学期	社会学研究演習 B (指導教員) ②	社会学研究演習 B (副指導教員) ② 先端社会研究 G 2 ② 先端社会研究 I 2 [*] 先端社会研究 J 2 [*] 他研究科科目 関西四大学単位互換科目	
3 年次 春学期	社会学研究演習 A (指導教員) ②	社会学研究演習 A (副指導教員) ② 先端社会研究 G 1 ② 先端社会研究 I 1 [*] 先端社会研究 J 1 [*] など	
3 年次 秋学期	社会学研究演習 B (指導教員) ②	社会学研究演習 B (副指導教員) ② 先端社会研究 G 2 ② 先端社会研究 I 1 [*] 先端社会研究 J 1 [*] など	
必要単位	16	4	合 計 20

②：2 単位

*：先端社会研究 I、J は各 2 単位。ただし、修了要件、GPA および平均点には算入しない。

V 成績発表・修了延期制度

1. 成績発表

成績発表は毎学期終了時に教学 Web サービスにて行います。成績発表日時は、2～3 頁および掲示を確認してください。

成績について疑義がある場合は、一定期間内に「成績調査依頼書」（社会学部事務室で配付）を社会学部事務室に提出することにより、成績評価について調査を依頼することができます。

2. 修了延期制度

修了要件を満たし、引き続き同一課程内での在籍を希望する場合、所定の「修了延期願」を社会学部研究科に提出し許可されれば修了を延期することができます（最大 1 年）。

修了延期制度の利用を考えている場合、学期期間中に社会学部事務室に相談してください。

【修了延期の条件】

- (1) 原則として秋学期修了予定者については 2 月末日までに、春学期修了予定者については 8 月末日までに「修了延期願」を社会学部事務室に提出しなければならない（なお、締切日が事務室休業日の場合は、翌業務日までとする）。
- (2) 修了延期の期間は 1 年間または 1 学期間とする。なお、各課程での修了延期期間は通算 1 年以内とする。
- (3) 許可された修了延期期間の経過後も引き続き修了延期を希望する者は、あらためて修了延期願を提出しなければならない。
- (4) 1 年間修了延期する場合、初めの 1 学期間を休学することができる。ただし、休学を希望する場合は、別途所定の休学手続きをとらなければならない。
- (5) 修了延期を許可された者の適用取消しは、原則として認めない。
- (6) 修了延期を認められた学期の学費は通常どおり（ただし、休学期間は休学在籍料）とする。
- (7) 修了延期に伴い、学位規程第 6 条及び第 7 条に定める論文の提出期間は延長しない。

Ⅵ 学位論文提出要領

1. 修士論文提出要領

(1) 提出期限

3月修了者：毎年1月16日(※) (社会学部事務室開室時間内)

9月修了者：毎年7月15日(※) (社会学部事務室開室時間内)

(※) 年度により、提出期限が前後する場合がありますので、必ず掲示あるいは2～3頁を確認してください。

(2) 提出場所

社会学部事務室

(3) 提出要領

修士論文は審査用に3部提出

※様式は「社会学評論 スタイルガイド」「心理学研究 執筆・投稿の手引き」に沿って執筆してください。表紙は下図を参考に作成してください。

表紙：下記要領による。

202×年度 修士論文
(題目) ○○○○○○○○○○○○○○
指導教員：○○教授
関西学院大学大学院 社会学研究科
博士課程前期課程 学生番号*****
関学 太郎

(4) 審査・評価方法

審査委員3名(主査1名、副査2名)が論文審査および口頭試問を行い評価します。

(5) 修士論文提出可能期間

前期課程入学後5年以内(休学期間を含む)

ただし、当該研究科委員会においてやむを得ない事情が認められた場合(出産・育児・病気等)に限り、提出し得る期間を2年間延長することができます。

※修士論文を提出するためには、主査(指導教員)の「修士論文」を履修する必要がありますので履修登録時にご注意ください。

2. 博士学位（甲号）申請論文提出要領

提出要領を説明しますので、**提出の1年前に社会学部事務室に相談してください**。相談の際は、履歴書・研究業績書を持参してください。

(1) 提出期間

毎年11月末迄。ただし、満期退学者は随時（最終年度は11月末迄を原則とします）。

満期退学者が提出するためには再入学の手続きが必要です。

(2) 提出場所 社会学部事務室

(3) 提出物

- ① 博士学位申請論文 3部（ただし審査委員が4名以上の場合は人数分）
- ② 博士学位授与申請書（◆） 1通
- ③ 履歴書 2部
- ④ 研究業績書 2部
- ⑤ 再入学願（満期退学者のみ）（◆） 1通（◆）…事務室所定様式

*上記①については、製本された状態で提出してください。紙ファイルやルーパーファイル、紐綴じのものは製本されているとはみなされませんので注意してください。

*博士学位を授与された者は本学学位規程の定めにより、当該「博士論文」を関西学院大学リポジトリ (<https://kwansei.repo.nii.ac.jp/>) に登録して公開しなければなりません。ただし、学位規程の定めにより相当と認められる事由で全文公表ができない場合には、期間を限って「博士論文」全文ではなくその内容の要約公表によって代えることができます。要約公表を希望する場合は指導教員と相談のうえ、「博士学位論文要約公表申請書」を「博士論文」と共に提出してください。社会学研究科と大学にて審査し、認められた場合には内容要約による公表に代えることが可能となります。

(4) 提出資格

学位規程第5条第1項による博士（社会学）論文の提出資格は以下のとおりです。

- ① 標準修業年限（3年間）の最終学期以降であること（休学期間は除く）。
- ② 博士課程後期課程修了要件を満たしている（見込みを含む）こと。
- ③ 博士課程後期課程入学後6年以内（通算2年以内の休学期間を含める）であること。
*上記②について当該学期中に合格できなかった場合、博士論文の提出は遡及して取り消される。
*上記③については、当該研究科委員会においてやむを得ない事情が認められた場合（出産・育児・病気等）に限り、提出しうる期間を2年間延長することができる。

(5) 提出基準

《社会学》

レフェリー制度の存在する社会学関係学会誌（またはそれに準ずる学術誌）に第1著者として掲載された論文が、申請された博士論文に少なくとも1本は含まれていること。

《社会心理学》

レフェリー制度の存在する心理学関係学会誌に第1著者として掲載された論文が、申請された博士論文に少なくとも2本は含まれていること。

なお、博士学位（甲号）申請論文提出予定者は、自身の論文を掲載した学会誌（またはそれに準ずる学術誌）が上述の基準に相当するかどうかを、事前に社会学部事務室を通して研究科に確認しておくこと。また、学会誌（またはそれに準ずる学術誌）への掲載については、博士学位論文提出時にレフェリー制度の存在する学会誌への掲載が決定していることをもってその条件を満たすものとする（未刊行のものについては、博士学位論文提出時に掲載決定等証明書を併せて提出すること）。

(6) 博士論文の公表

文部科学省令「学位規則」の一部改正（2013年4月1日付）により、博士の学位を授与された者は、学位を授与した研究機関の協力を得て、インターネット公表することが義務付けられました。これに伴い、本学で授与された博士学位に関する論文は、関西学院大学リポジトリにてその全文を公表することとなっています。

ただし、別途定めるやむを得ない理由に該当すると大学が認めた場合に限り、全文公表ではなく、内容の要約公表に代えることが可能です。

リポジトリ登録データの作成・提出、やむを得ず要約公表とする場合の手続き等の詳細については、社会学部事務室に相談してください。

(7) 関西学院大学リポジトリ

本学では関西学院大学リポジトリにより本学における学術研究成果を公表しています。公表する学術研究成果には、本学教員の著書、論文等の研究業績のほか、本学にて授与する博士学位論文も含まれており、本学で授与された博士学位に関する論文は、特許・知的財産の確保や倫理的配慮などの特殊な場合を除き、原則として本学リポジトリにて公開することとなっています。

本学リポジトリの概要については、本学ホームページを確認してください。

ご参考：関西学院大学リポジトリ ホームページ

<https://kwansei.repo.nii.ac.jp/>

3. 学位論文審査基準

【修士学位論文の審査基準】

修士学位論文の審査にあたって、下記の諸点を考慮しながら評価を行う。

1. テーマの明確性
2. 先行研究への批評性
3. 論理展開の緻密性
4. 分析手法の明確性
5. 実証的な手続きの妥当性
6. 学問的な独創性
7. 社会問題解決への実践的志向性
8. 研究の将来性

【博士学位論文の審査基準】

博士学位論文の審査にあたって、下記の諸点を考慮しながら評価を行う。

1. テーマの明確性
2. 先行研究との関連性
3. 論文要旨の一貫性
4. 論文構成の体系性
5. 実証的な手続きの妥当性
6. 論理展開の緻密性
7. 研究内容の新規性
8. 学問的な独創性
9. 社会問題解決への実践志向性
10. 研究の将来性

VII 学位取得プロセス

1. 修士学位取得プロセス

前期課程2年間で「修士学位申請論文」を、後期課程3年間で「博士学位申請論文」を執筆・提出するための「目標」となります。指導教員と相談のうえ、研究活動に精励されることを期待します。

なお、後期課程在学中で、「博士学位キャンディデート」授与要件を満たした者は、指導教員を通じて社会部事務室に申し出てください。

社会学研究科 前期課程 修士学位取得プロセス〈モデル〉

前期課程第1学年度	
8月出願時	「研究計画書」の提出
2月出願時	「研究計画書」の提出
3月中旬	「副指導教員届」の提出（事務室）
4月初旬	履修登録 指導教員の指導のもと、「研究計画書」にそって修士論文執筆に必要な授業科目の履修・単位修得を行う。
9月初旬	履修登録 指導教員の指導のもと、「研究計画書」にそって修士論文執筆に必要な授業科目の履修・単位修得を行う。
2月中旬	「研究成果発表会」
第1学年度中	研究科の書評誌に、修士論文の内容に関連する書評・展望論文を執筆する（1万字程度）。
前期課程第2学年度	
4月初旬	履修登録 指導教員の指導のもと、「修士論文計画書」にそって修士論文執筆に必要な授業科目の履修・単位修得を行う。
4月中旬	「修士論文計画書」の提出 研究科副委員長、指導教員及び副指導教員に提出する。 なお、研究科副委員長用は事務室に提出する。
9月初旬	履修登録 指導教員の指導のもと、「修士論文計画書」にそって修士論文執筆に必要な授業科目の履修・単位修得を行う。
1月中旬	「修士論文」提出
1月中旬	「研究成果発表会」に発表参加する場合は要旨を提出（2千字程度）
1月下旬	修士論文口頭試問実施
2月中旬	「研究成果発表会」
3月上旬	研究科委員会：学位授与決定
3月中旬	「修士学位記」授与式
第2学年度中	研究科の書評誌に、修士論文の内容に関連する書評・展望論文を執筆する（1万字程度）。

2. 博士学位取得プロセス

社会学研究科 後期課程 博士学位取得プロセス〈モデル〉

後期課程第1学年度	
4月初旬	履修登録
4月中旬	「年次研究計画書」の提出 研究科副委員長、指導教員及び副指導教員に提出する。 なお、研究科副委員長用は事務室に提出する。
9月初旬	履修登録
第1学年度中	学会での発表を行う。 「単著論文」（公開可能な単著論文で2万字程度）又は、 「共著論文」（第1著者で書かれたもの）を作成。
1月中旬	「研究成果発表会」の要旨を提出（2千字程度）
2月中旬	「研究成果発表会」
後期課程第2学年度	
4月初旬	履修登録
4月中旬	「年次研究計画書」の提出 研究科副委員長、指導教員及び副指導教員に提出する。 なお、研究科副委員長用は事務室に提出する。
9月初旬	履修登録
第2学年度中	学会での発表を行う。 「単著論文」又は「共著論文（第1著者で書かれたもの）」を博士学位キャンディデート授与要件を満たす学会誌（またはそれに準ずる学術誌）に投稿する（受理された上で学会誌に掲載されること）。
1月中旬	「研究成果発表会」の要旨を提出（2千字程度）
2月中旬	「研究成果発表会」
2月中旬	「博士学位申請論文 構成概要書」提出（8千字程度） 指導教員、副指導教員及び研究科委員長に提出する。
3月中旬	「博士学位 キャンディデート」の授与 博士学位キャンディデートの授与要件は次のとおりとする。 ①学会発表を2回以上行うこと。 ②論文を次のとおり作成すること。 《社会学》 レフェリー制度の存在する社会学関係学会誌（またはそれに準ずる学術誌）に第1著者として掲載された論文1本以上 《社会心理学》 レフェリー制度の存在する心理学関係学会誌に第1著者として掲載された論文2本以上 ③「博士学位申請論文 構成概要書」（8千字程度）を提出すること。 ④研究科の面接において、博士学位キャンディデート認定後、認定日の属する年度の翌年度末までに博士学位（甲号）申請論文の提出が可能と判断されること。
後期課程第3学年度	
4月初旬	履修登録
4月中旬	「年次研究計画書」の提出 研究科副委員長、指導教員及び副指導教員に提出する。 なお、研究科副委員長用は事務室に提出する。
9月初旬	履修登録
11月末迄	「博士学位申請論文」提出 博士学位申請論文（3部）、博士学位授与申請書（所定用紙） 履歴書（2部）、研究業績書（2部）
12月	後期課程指導教員委員会：受理及び審査委員会構成
1月～2月	「博士学位申請論文」の公開口頭試問
1月中旬	「研究成果発表会」の要旨を提出（2千字程度）
2月中旬	「研究成果発表会」
3月上旬	後期課程指導教員委員会：審査結果報告及び学位授与決定
3月中旬	「博士学位記」授与式

VIII 社会調査士資格

現代の情報化社会では、相当数の社会調査が実施されています。変動の激しい、多極化・複雑化のすすむ社会的現実をとらえ、生起するさまざまな社会問題の解決を図っていくうえで社会調査は不可欠の方法となっています。

こうした社会調査の高まる重要性に比して、その担い手となる専門的人材の育成システムの現状は、きわめて未整備の状態にあり、その結果として、社会調査の一部について、しばしば方法上・倫理上の問題点が指摘されて、社会調査の質的な改善や水準向上を求める声は大きくなってきました。

こうした声に応え、社会調査に関する教育体制を整備し、科学的な社会調査を担える人材の育成を組織化すると同時に、その専門的職業としての資格の制度化をはかるために、2003年11月、「社会調査士資格認定機構」（現「一般社団法人 社会調査協会」）が設立され、2004年より資格認定を行っています。

1. 制度概要

(1) 社会調査士資格の種類

「社会調査士」「専門社会調査士」は、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」を証明する資格です。

【社会調査士】

社会調査の基礎力を身につけた調査士。

調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を体験することにより、基本的な調査方法や分析手法の妥当性、またその問題点を指摘することができます。

【専門社会調査士】

高度な調査能力を身につけたプロフェッショナル。

調査の問題点や妥当性等の指摘はもちろんのこと、多様な調査手法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営管理する能力、高度な分析手法による報告書執筆などの実践能力を有しています。

(2) 資格取得

【社会調査士】

大学または大学院で、標準カリキュラムに対応する6科目を単位履修することで資格が認定されます。

※各大学・大学院で提供科目は異なります。

※大学院はG科目の単位修得を修士論文に代替できます。

【専門社会調査士】

社会調査士資格を有し、大学院で標準カリキュラムに対応する3科目を単位履修したうえで研究論文を提出することで資格が認定されます。

※専門社会調査士は、社会調査士資格取得と並行して履修することが可能です。

(3) 資格認定申請

1月頃に「社会調査士」「専門社会調査士」の資格申請方法を掲示します。

2. 標準カリキュラム

「社会調査士」資格取得のためには、下記のA～Fに対応する授業科目の単位を修得することが必要です。(EとFはいずれかひとつでよい)

「専門社会調査士」資格取得のためには、下記のH～Jに対応する授業科目の単位を修得することが必要です。

(1) 授業科目

【社会調査士】

- A：社会調査の基本的事項に関する科目
- B：調査設計と実施方法に関する科目
- C：基本的な資料とデータの分析に関する科目
- D：社会調査に必要な統計学に関する科目
- E：量的データ分析の方法に関する科目
- F：質的な分析の方法に関する科目

【専門社会調査士】

- H：調査企画・設計に関する演習（実習）科目
- I：多変量解析に関する演習（実習）科目
- J：質的調査法に関する演習（実習）科目

(2) 社会学研究科のカリキュラム

資格取得を希望する学生は下記対応表のとおり該当する授業科目の単位を修得してください。

ただし、各科目にはそれぞれの科目主旨および科目のレベルがありますので、それらに従い以下のような流れで履修計画を立ててください。

- A：社会調査の基礎 ⇒ B：調査設計 ⇒ H：高度な調査企画
 C：統計の基礎 ⇒ D・E：統計の中級（集中講義） ⇒ I：高度な統計技法
 F：質的調査法の基礎 ⇒ J：質的調査法の応用

※資格取得に際し、E・Fはいずれかひとつで可となりますが、調査技法や統計処理に関する知識を習得するためにも、両科目とも履修し単位修得することを推奨します。

標準カリキュラムと社会学研究科との対応

		2009年度以降	備考
社会調査士	A	社会調査論	学部：社会調査入門Aと合併開講
	B	標本調査法	学部：社会調査入門Bと合併開講
	C	社会統計学Ⅰ	学部：データ分析（入門）と合併開講
	D	社会統計学Ⅱ	夏季集中講義
	E	社会統計学Ⅲ	夏季集中講義
	F	社会調査特論D/社会調査特殊研究D	学部：質的調査法と合併開講
専門社会調査士	H	調査企画演習	
	I	調査統計演習	
	J	フィールドワーク演習 社会調査特論C/社会調査特殊研究C	夏季集中講義

※専門社会調査士コースの修了に必要な科目と、「専門社会調査士」資格取得に必要な科目は異なりますので、十分に注意してください。

1. 特別学生の身分変更

特別学生（社会人・外国人留学生）入学試験により入学した学生の学籍上の扱いは特別学生となりますが、授業の履修および研究上は正規学生と同等に扱われます。

特別学生は、入学後1年以上経過後に、研究科委員会の判定により正規学生に身分を変更することができます。

(1) 身分変更申請

身分変更申請受付は春学期、秋学期の2回行います。

6月、11月に掲示にてお知らせします。

(2) 身分変更の要領

- ・入学後1年以上を経過した時点で、研究科委員会の判定により身分変更することができます。
- ・希望学生は、指導教員の推薦状を添え、所定の期限（6月又は12月）までに申請してください。
- ・判定は、修得した諸科目の成績（平均点が80点を目安、修得単位数が課程修了必要単位数の5割）および面接により行います。
- ・正規学生に身分変更した場合、特別学生として既に修得した大学院での単位は、正規の単位として認定します。
- ・修士学位および博士学位（甲号）を授与されるためには、正規学生となってから1学期間以上の在学期間を必要とします。
- ・研究を目的として、特別学生のまま在学を続けることも可能ですが、その場合は修士および博士学位（甲号）を申請することはできません。

X 研究支援制度

1. 日本学術振興会 特別研究員

独立行政法人 日本学術振興会（JSPS）が設けている制度です。

「優れた若手研究者に、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えること」を目的としています。

後期課程在学者および後期課程修了者等で、大学等で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」で採用し、研究奨励金を支給するものです。

申請時期に関しては3月頃に掲示しますが、詳細は、独立行政法人 日本学術振興会（JSPS）のホームページを参照してください。また、申請にあたっては本学の研究推進社会連携機構のホームページも参照してください。

将来研究者として自立する上で有効な評価が得られるなど、若手研究者にとって重要なものであるため申請することを強く推奨します。

2. 教学補佐（Teaching Assistant, T. A.）

毎年、大学院学生および大学院研究員を対象として、次の3種類の業務において教学補佐を募集しています。

詳細は随時掲示します。

- (1) 教育支援・補助業務
- (2) 授業補佐業務
- (3) 試験監督業務

3. 大学院奨励研究員

博士学位取得前の優れた若手研究者に主体的に研究する機会を与え、本学の研究の活性化を図り、学問的研究に専念する研究者を養成すること、また、学位（課程博士）授与の促進を図ることを目的とした制度です。

申請に関する詳細は6月頃に掲示します。

ただし、応募するには、原則として「日本学術振興会特別研究員」への申請等が条件となります。

4. 大学院博士課程後期課程研究奨励金

後期課程在学者のうち、研究能力が特に優れており、研究成果が期待できる者に対して、学費相当額の研究奨励金を支給する制度です。

申請に関する詳細は6月頃に掲示します。

ただし、応募するには、原則として「日本学術振興会特別研究員」への申請等が条件となります。

5. 大学院海外研究助成金

若手研究者である博士課程後期課程在学者および大学院研究員の海外における研究活動の支援・育成を目的として、海外における優れた個人研究や共同研究に要する経費を支給する助成金です。

海外の学会発表・ポスターセッション時の参加費、交通費、宿泊費等を補助します。支給は、区分 A（上限20万円）、区分 B（上限10万円）の2種類があります。申請に関する詳細は5月頃に掲示します。

6. 社会学研究科学生への研究活動支援

社会学研究科学生の研究活動に対して、1人あたり上限1万円の補助をします（要申請）。

※補助の対象となる研究活動は、「大会への参加費」あるいは「大会での発表費」です。申請資格等の詳細については掲示にてお知らせします。

社会学研究科内規

- 1 本内規は関西学院大学大学院学則の下にあって、社会学研究科において行う大学院教育実施のためのものである。
- 2 (大学院教育の目的)
大学等の研究者・教育者の養成とともに社会の実践場面で活躍しうる高度の能力と学識を有する人材の養成を目的とする。
- 3 (教育課程)
社会学研究科での教育は、学則に準拠し、その指導は別に定める。
- 4 (コース)
前期課程社会学専攻に「専門社会調査士コース」を置く。
- 5 (専門社会調査士コースの修了要件)
専門社会調査士コースの修了要件は、学則第20条の定めにかかわらず、次のとおりとする。

社会学研究演習 A 4 単位、社会学研究演習 B 4 単位、調査企画演習 2 単位、調査統計演習 2 単位、フィールドワーク演習 2 単位、統計解析演習 A 2 単位、統計解析演習 B 2 単位、統計解析演習 C 2 単位、社会学文献講読 (英) A 2 単位、社会学文献講読 (英) B 2 単位

- 6 (指導教員)
学生は 1 名の指導教員と 1 名の副指導教員の指導によって授業科目を選択し、論文の作成等、研究一般についての指導を受けるものとする。
- 7 (外国語学力の認定)
外国語学力の認定については、前期課程学生は社会学文献講読 (英)、後期課程学生は社会学文献研究 (英) の修得をもって認定しうる。ただし、博士課程後期課程在学者に限り、外国語学力認定試験の合格をもって、外国語学力を認定しうる。
- 8 (入学及び進学)
 - (イ) 学則に準拠して行う選考試験については、「社会学研究科一般入学試験細則」に従い実施する。
 - (ロ) 本学社会学部の 3 年卒業制度により、本研究科に早期に進学を希望する者は、次の条件をすべて満たした者とする。
 - a. 本学社会学部に 3 カ年以上在学 (休学期間を除く) していること。
 - b. 卒業に必要な 124 単位以上を修得し、かつ 3 年終了時の平均点が 80 点、ただし、専門社会調査士コースは 78 点以上あること。
 - c. 研究演習担当者の推薦があること。
- 9 (研究員、委託生、聴講生、科目等履修生、特別学生及び交換学生)
本研究科においては、特別学生については別に定める「社会学研究科特別学生に関する細則」に準拠して特別入学試験を実施する。研究員、委託生、聴講生、科目等履修生、交換学生については、学則及び関係諸規程に準拠して判定する。

10 (その他)

大学院学則の適用は、原則として入学年度の大学院学則が適用される。

附 則

- 1 この内規は、1975年4月1日から施行する。
- 2 この内規は、1989年4月1日から改正施行する。
- 3 この内規は、1990年4月1日から改正施行する。
- 4 この内規は、1991年4月1日から改正施行する。
- 5 この内規は、1999年4月1日から改正施行する。
- 6 この内規は、2002年4月1日から改正施行する。
- 7 この内規は、2003年4月1日から改正施行する。
- 8 この内規は、2005年4月1日から改正施行する。
- 9 この内規は、2006年4月1日から改正施行する。
- 10 この内規は、2007年4月1日から改正施行する。
- 11 この内規は、2008年4月1日から改正施行する。
- 12 この内規は、2009年4月1日から改正施行する。
- 13 この内規は、2016年4月1日から改正施行する。

以 上



関西学院大学大学院 社会学研究科

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL : 0798-54-6202

FAX : 0798-51-0955